

令和5年度 事業報告書

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

特定非営利活動法人ま・わ・た

1 事業の成果

昨年度同様、指定管理者制度に基づく「真岡市市民活動推進センターの管理運営」を団体運営の中核に据え、「民間支援組織として、営利を目的としない社会に貢献する活動を行っている個人や団体に対して、その活動や支援を行い、市民の自主的な活動による豊かな市民社会の発展に寄与することを目的とする」という設立目的のもと、事業を展開した。

フードバンク事業では拠点を確保し、定例で食品の配布が行えるようになった。福祉事業所運営事業では、「多機能型事業所そらまめ」事業所の移転など大きな計画が進められることとなった。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

| 事業名 | 事業内容 | 実施日 | 実施場所 | 従事者の人数 | 受益対象者の範囲及び人数 | 支出額(千円) |
|------------------------------------|----------------------|------|------------|----------|--------------------|---------|
| ①市民活動に関する情報の収集と提供に関わる事業 | A.各種イベントにおける広報 | 通年 | 市民活動推進センター | 会員 2名 | 災害支援団体 および被災者 | 0 |
| | (D.に内包) | - | - | - | - | - |
| ②市民活動に関する相談、活動促進のための調整に関わる事業 | (B.に内包) | - | - | - | - | - |
| | (D.に内包) | - | - | - | - | - |
| ③市民活動における人材育成に関わる事業 | (B.に内包) | - | - | - | - | - |
| | (C.に内包) | - | - | - | - | - |
| | (D.に内包) | - | - | - | - | - |
| ④市民活動における多様な主体間の交流・連携の促進及び支援に関わる事業 | B.講師派遣事業 | 実施なし | 実施なし | 実施なし | 実施なし | 0 |
| | C.市民活動団体との共催事業 | | 栃木県内 | 会員 2名 | NPO 法人等、 一般市民等 | 0 |
| | (D.に内包) | - | - | - | - | - |
| ⑤市民活動に関する調査研究及び政策提言に関わる事業 | (D.に内包) | - | - | - | - | - |
| ⑥市民活動の拠点に関する施設管理運営事業 | D.真岡市市民活動推進センターの管理運営 | 通年 | 市民活動推進センター | 職員 6名 | 一般市民、登録団体・個人 ほか | 14,975 |

| 事業名 | 事業内容 | 実施日 | 実施場所 | 従事者の人数 | 受益対象者の範囲及び人数 | 支出額(千円) |
|---|----------------|------|------|-------------|----------------|---------|
| ⑦高齢者・障がい児者・子どもの福祉向上に関する事業 | (C.に内包) | - | - | - | - | - |
| | E.フードバンクに関する事業 | 通年 | 真岡市内 | 会員一般 18名 | 一般市民 | 2,567 |
| | (F.に内包) | - | - | - | - | - |
| ⑧まち・むら活性化に関する事業 | 実施なし | 実施なし | 実施なし | 実施なし | 実施なし | - |
| ⑨文化・芸術・スポーツの振興に関する事業 | 実施なし | 実施なし | 実施なし | 実施なし | 実施なし | - |
| ⑩自然環境への理解及び環境保護の意識を高める事業 | 実施なし | 実施なし | 実施なし | 実施なし | 実施なし | - |
| ⑪災害発生時の救援及び被災地域の復興に資する事業 | (A.に内包) | - | - | - | - | - |
| | (D.に内包) | - | - | - | - | - |
| ⑫国際協力、国際交流事業 | (E.に内包) | - | - | - | - | - |
| ⑬男女がともに尊重し合う社会づくりに関する事業 | 実施なし | 実施なし | 実施なし | 実施なし | 実施なし | - |
| ⑭地域社会における学びの場づくりに関する事業 | (D.に内包) | - | - | - | - | - |
| ⑮障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障害福祉サービスならびに一般相談支援事業 | F.福祉事業所運営事業 | 通年 | 真岡市内 | 職員 9名 | 障がい児者、 一般市民 | 33,595 |
| ⑯その他この法人の目的を達成するために必要な事業 | (A.に内包) | - | - | - | - | - |

A.～E.については、次ページ以降で報告するものとする。

- A. 各種イベントにおける広報
- B. 講師派遣事業
- C. 市民活動団体との連携・共催事業
- D. 真岡市市民活動推進センターの管理運営
- E. フードバンクに関する事業
- F. 福祉事業所運営事業

3 事業の詳細

A. 各種イベントにおける広報

本年度は、令和5年2月にトルコ・シリア地域で発生した大地震の被災地支援のため、真岡市市民活動推進センターに募金箱を設置させてもらい、寄付を募った。

また、令和6年1月には能登半島地震が発生したため、同センター内に募金箱を設置し、寄付を募った。

災害支援のための募金活動 実施概要

| イベント名 | 募金額 | 寄付先 | 備考 |
|----------------|---------|-------------|-----|
| 2023年トルコ・シリア地震 | 2,964円 | 日本赤十字社 | 救援金 |
| 令和6年能登半島地震 | 14,000円 | とちぎコミュニティ基金 | 支援金 |

B. 講師派遣事業

地域からの要請などにより、当団体役職員を講師として講座を開催し、市民活動を理解・促進するための一助とすることを目的に実施しているが、本年度は要請等がなかったため実施されなかった。

C. 市民活動団体との共催事業

市民に必要とされる団体を目指して、真岡市をはじめとした芳賀地域で活動している市民活動団体を実施する多様な事業に関わることで、多くの市民が市民活動の魅力に気づき、参加を促す契機とする。

令和3年度に実施した「事業継続計画(BCP)」に係るNPO法人の意識調査から派生し、宇都宮大学院の学生となった当会員による市民活動団体のBCPに対する研究・意識調査などに協力してきた。

事業協力 実施概要

| 日付 | 事業名称 | 実施内容 | 協力先 |
|----|----------------------------------|---|-------------------------------------|
| 通年 | 市民活動団体向けのBCPに対する研究並びにツール(様式例)の開発 | 昨年度実施したアンケート調査から派生した市民活動団体のBCPに対する研究・意識調査などへの協力 | 認定特定非営利活動法人宇都宮まちづくり市民工房、国立大学法人宇都宮大学 |

D. 真岡市市民活動推進センターの管理運営

真岡市市民活動推進センターの指定管理期間3期目における事業年度5年目であり、センター開設から16年目を迎えた。新型コロナウイルス感染症の5類移行により、様々な制限がなくなる中、センター運営においても、対面での交流などを含む事業を企画・実施してきた。以下に事業の結果を示す。

令和5年度 真岡市市民活動推進センター 指定管理業務 概要

| |
|--|
| <p>1. センターの利用等に関すること</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・団体・個人登録の状況は、それぞれ 218 団体（前年比-1）、106 名（前年比+1）であった。 ・利用者総数は増加し、ミーティングルームの貸し出しについて、コロナ禍以前の利用数に戻った。また、既存の利用団体の高齢化などにより、夜間の利用が大きく減少している。 ・活動展示の場である「こらぼひろば」については、ほぼ毎月実施することができた。 ・ロッカー・メールボックスについては概ね利用いただいた。 |
| <p>2. 情報収集・提供</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・広報誌「コラボ！」を、例年通り発行した。（1,000 部） ・ウェブサイト、SNS 等によるオンラインによる広報強化を図った。 ・「もおかインフォ」や「Weekly news」、広報もおか等においてセンター事業のお知らせや報告を継続して行ってきた。また、FM もおか等でも登録団体やセンターの活動を発信してきた。 ・利用者アンケートを実施し、施設等の満足度の他、二宮移転後の利用状況や施設の拡充希望、センターの情報入手手段についての設問を追加した。また、活動状況や令和5年度の実施活動についての確認と団体の基礎状況についても回答いただいた。回答率は団体 36.9%（80/220）、個人 22.5%（23/109）だった。昨年度よりアンケートによる基礎状況等の回答により、登録変更あるいは廃止に替える対応を行っており、本年は7団体および2名の登録変更、3団体及び5名の登録廃止につながっている。 ・関係機関との交流として、外部の研修や会議等への出席や事業への協力、取材などを行った。 |
| <p>3. 相談等への対応</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・相談対応は 40 件で、多くは登録団体からの相談（35.0%）で、内容は「団体・人・活動」に関する相談が最も多かった（42.0%）。 |
| <p>4. 研修会、講座の実施</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・一般市民向け事業としては、「コラボ茶話」（全 8 回※1 回は延期し実施）、「クリーンボランティア」（全 7 回※2 回は中止）、「協働理解促進講座」（全 1 回）、「高校生ボランティア体験事業」（通年）を実施した。 ・センター利用者や市民活動団体に向けた事業では、「こらぼ〜れフェスティバル」（全 1 回）、「スキルアップ講座」（全 5 回）、「ボランティアコーディネート講座（外国人支援団体のつながりづくり/災害支援）」（通年/2 回）を実施した。 ・普及・研究事業では、広報誌の発行の他、「学生向けボランティアガイドブック作成」（通年）、「視察研修（鹿沼市）」（全 1 回）、「NPO 法人アンケート」（通年）を実施した。 ・その他事業については、「ミーティングルーム大掃除」（全 1 回）を実施した。 ・なお、令和6年能登半島地震に対応し、災害ボランティアにかかわる事業（スキルアップ講座で1回、ボランティアコーディネート講座で2回）を実施した。 |
| <p>5. 交流促進のための事業</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・市民・企業・行政へ投げかけられた事業としては、クリーンボランティアや協働理解促 |

進講座が挙げられる。

- ・利用者間の交流事業として、「こらぼ de ランチ」とその後継事業として「サロン・ド・コラボ」を実施した。
- ・登録団体や個人の活動紹介の場である「こらぼひろば」では 11 回の展示を実施した。

6. 関係機関との協力・連携に関すること

- ・所管課の市民協働推進室と連絡調整を行いながら、必要な事項についてはその都度協議を行い、対応した。特にボランティア体験事業「推し街ボランティア」を共催し、自治会や高校生をつなげることができた。
- ・二宮分館とも連絡交換をしながら、必要な事項についてはその都度協議を行い、対応した。また「真岡市二宮コミュニティセンター消防訓練」に参加し、コミュニティセンター各部署との有事の際の対応について共有した。
- ・その他、市役所各部署や市社会福祉協議会等の市内機関や県内の他の市民活動支援機関・行政等、県内外の市民活動団体とつながることで、情報の共有などを行うよう心掛けた。
- ・令和 6 年能登半島地震の募金箱を設置し、9,387 円を中央共同募金会へお渡しした。

7. センター内庶務

- ・書類や物品管理について、台帳や規約をもとに管理を進めた。
- ・会計業務、給与・労務管理の健全運営のため、システム、人員の調整に努めた。
- ・施設内の環境美化と新型コロナウイルス感染対応のため、毎日開館直後の掃除・消毒を継続した。
- ・勤務シフトの管理を行い、法令に準じた勤務体制の構築を目指した。

E. フードバンクに関する事業

本年も真岡市内でのフードバンク活動の促進のため、NPO 法人フードバンクうつのみやの協力を仰ぎながら活動を進めている。企業等との協働により、寄付ボックスの回収や入れ替えた防災備蓄品の提供などを受けた。また、個人や市民活動団体からの寄付も増やすことができた。

令和 4 年度に引き続き「第 2 回お米配布会」とフードバンク事務所オープンキャンペーンの食料品配布を実施した。また、県のフードバンク団体支援と真岡市社協の協力で「第 3 回食料品配布会」を行い、困窮している方々への支援と活動の広報を行った。フードドライブの拠点として、ヨークベニマルの筑西市の店舗と覚書を締結した。

さらに連携している NPO 法人フードバンクうつのみやの開催する「第 11 回チャリティウォーク」にも参画し、一緒に寄付を集めることができた。

真岡市環境課からは、市庁舎で実施した「フードドライブ」で集まった食品を、寄贈いただいた。

フードバンク事業 実施概要

| フードバンク運営 | |
|----------|--------------------------------------|
| 日 時 | 通年（随時寄付ボックスの回収及び食品の SOS 配布） |
| 提供元 | 市内某スーパーマーケット、真岡市、FB うつのみや、個人、団体等 |
| 提供先 | 個人、市内各種施設、真岡市、真岡市社協、キャンペーンおよび配布会 |
| 提供物 | 食料品（米、レトルト食品、カップ麺、調味料、野菜 等）：9,350 kg |

| フードバンク事務所での定例配布 | |
|-----------------|-----------------------------|
| 日 時 | 6月以降、毎週土曜日の午前中に実施（不定期で休みあり） |
| 実施回数 | 31回 |
| 利用者数 | 延べ1,098人 |
| 従事者数 | 18人 |

フードバンクキャンペーン 実施概要

| 開催日 | 会 場 | 配布数 | 備 考 |
|-------|--------------------|-------|--------|
| ①6/17 | フードバンク事務所兼倉庫(オープン) | 213名分 | 県の食品寄贈 |

配布会 実施概要

| 開催日 | 会 場 | 配布数 | 備 考 |
|-------|--------------|------|-------------|
| ①4/23 | フードバンクもおか事務所 | 75名分 | お米の配布 |
| ②3/24 | 真岡総合福祉保健センター | 98名分 | 県支援と真岡市社協協力 |

フードドライブ 実施概要

| 開催日 | 会 場 | 寄付 | 備 考 |
|--------|----------------------------|--------|----------|
| ①9/3 | 二宮コミュニティセンター(こらぼ～れフェスティバル) | 食品 | 真岡市社協と共催 |
| ②11/23 | 真岡市青年女性会館(大産業祭) | 食品・日用品 | 真岡市社協と共催 |

チャリティウォーク 実施概要

| 開催日 | 開催地 | 実施内容 | 備 考 |
|------|-------------|-------------------------|-------------------|
| 10/8 | 宇都宮 LRT コース | チャリティウォークの主催者側スタッフとして参画 | 寄付金 135,144 円を受取る |

F. 福祉事業所運営事業

令和3年度から、当法人で事業を継承し、事業所の継続と組織基盤づくりの支援を行っている「多機能型事業所そらまめ」では、引き続き就業継続支援 B 型事業所「そらまめ食堂」と生活介護「アトリエファーベ」の2本の柱で事業を進めている。

令和5年度も引き続き、事業が円滑に進められるよう支援を行ってきた。運営面では利

用者不足や事業所の移転など様々な課題に対応してきた。反面、自立支援の長中期的な計画等の進捗は滞ってしまったため、今後の課題としたい。

多機能型事業所そらまめ（就労継続支援 B 型・生活介護）令和 5 年度 運営概要

| |
|---|
| 1. 個別支援計画と計画相談 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・新規利用者の個別支援計画を速やかに作成しGoogleドライブで現場の職員と共有することが出来た。 ・部門会議が定着し、利用者さんの状況や課題を毎月話し合えた。 ・指示書やジグの開発や作成を現場の職員ができるようになった。 <p style="text-align: right;">（担当…サービス管理責任者・主任支援員）</p> |
| 2. そらまめ食堂・そらまめ工房（就労継続支援 B 型）の支援 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・2名の方が退所したが、新卒の利用者2名が入所し食堂に配属となる。 ・「5分でできるカード」の導入で終了間際になると何もせずに時間を待つ利用者が最後まで働けるようになった。 ・雑貨のネット販売の開始 ・SOWACAFE や ARIGATO の方にコーヒの淹れ方や掃除の基本を利用者が直接教わることが出来た。 ・LINE を使った職員の情報共有 ・制服の洗濯を当番制にしたことで新たな作業の獲得と衛生を保てるようになった。 ・防災訓練の実施（年2回） ・施設外労働の定着 <p style="text-align: right;">（利用者数：13名 担当…目標工賃達成支援員・作業指導員・生活支援員）</p> |
| 3. アトリエファーベ（生活介護）の支援 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・利用者さんへの言葉かけは基本的に受容と共感の姿勢を心かけた。 ・避難訓練の実施（毎月） ・1名の利用者さんが転居のため退所となったが、新たに1名入所となる。 <p style="text-align: right;">（利用者数：5名 担当：生活支援員・看護師）</p> |
| 4. 余暇活動・生活支援 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・1年を4期に分け、全利用者がどこかに入り担当制にしたため、全員が企画から参加できるようになった。それぞれ個性豊かな活動日となった。 ・避難訓練を生活介護は毎月、B型は半年に一度行った。 <p style="text-align: right;">（担当：生活支援員）</p> |
| 5. 食堂運営 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・金額を含めメニューの見直しを行い、メニュー表も見やすく作り替えた。 ・二宮コミュニティセンターの売れ行きが悪く、総合福祉健康センターに場所を移して販売開始→2倍以上の売れ行きとなった。 ・井頭公園での音楽フェス「ベリテン」に出店（障害者事業所としては初出店） ・土曜日のメニューをみはなやの遠島さんにプロデュースしてもらい、身体に優しいワンプレートランチとして提供し始めた。 |
| 6. 職員研修 |

- ・年間 11 回の研修に延べ人数 19 名職員が参加した。また、職員全員が何かしらの研修に参加した。
- ・きょうされん全国大会（埼玉県）に職員 5 名利用者 3 名が参加した

7. 地域活動・外部団体との協働

- ・図書館プロジェクトでは、真岡女子高 JRC 部の生徒が中心となり、子どもたちと一緒に手話や点字などを使ってのイベントを開催。そらまめの利用者は受付を担当する。

（担当 4 人（うち 2 名利用者））

- ・こども地域食堂（まめっこ食堂）を年間 24 回開催。たなばた夕涼み会やハロウィンパーティー、クリスマス会の行事も開催した。11 月からは食数を増やし 30 から 50 になった。大型テレビやお金、食材など多くの人や企業から寄付を頂くことが出来た。
- ・もおかまちづくりプロジェクトとのタイアップで、新庁舎建設中の仮囲いに市民 100 人で絵を描くイベントを開催した。
- ・その他の外部団体との協働…きょうされん、KTU（県内の 10 か所の事業所が集まり自主研修をする集まり）、真岡市商工会議所、栃木県リトルベビーサークル、真岡市社会福祉協議会、真岡女子高 JRC 部、TAM 会議などと一緒にたくさんの取り組みができた。

8. そらまめ建設委員会

- ・現在の建屋の老朽化と狭さで、3 年以内の新しい施設への移転を目指し、令和 4 年度より「そらまめ新施設建設委員会」が発足。令和 5 年に土地の確保ができ、いよいよ令和 6 年度中に完成、引っ越しを目指している。